

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	大阪市立大桐中学校
学校長名	南 義徳

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・大桐中学校では、第3学年 155名中146名で実施

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率をみると、
 国語Aは、全国比-5.7ポイント、大阪市比-3.4ポイント、
 国語Bは、全国比-4.4ポイント、大阪市比-2.2ポイント、
 数学Aは、全国比-10.1ポイント、大阪市比-7.7ポイント、
 数学Bは、全国比-8.4ポイント、大阪市比-6.9ポイント、
 理科は、全国比-8.1ポイント、大阪市比-4.4ポイントであった。
 また、無回答率をみると、国語Aは、全国比1.0ポイント、大阪市比0.9ポイント、国語Bは、全国比0.6ポイント、大阪市比0.1ポイント、数学Aは、全国比2.9ポイント、大阪市比2.6ポイント、数学Bは、全国比5.1ポイント、大阪市比4.3ポイント、理科は、全国比1.3ポイント、大阪市比0.7ポイントであった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

興味・関心において肯定的に回答している生徒は、全国比-2.3ポイント・大阪市比-0.8ポイントであった。正答率では「話す・聞く能力」「書く能力」とともに定着が低い。

[数学]

興味・関心において肯定的に回答している生徒は、全国比+2.3ポイント・大阪市比+4.2ポイントで、意欲的に取り組む姿勢がうかがえる。しかし正答率をみると、基礎・基本の定着が低い。観点においては「数学的な技能」、領域においては「図形」と「資料の活用」の定着が特に低い。

[理科]

興味・関心において肯定的に回答している生徒は、全国比-11.2ポイント・大阪市比-4.6ポイントであった。正答率では「化学」と「生物」の領域において定着が特に低い。

質問紙調査より

「授業のはじめに目標を示され、授業の最後に学習内容を振り返る活動がなされている」と感じている生徒が全国比-24.5ポイント・大阪市比-12.6ポイントであった。1時間の授業で何を学ぶのか、また何を学んだのかを示しきれていないことが明らかになった。

また、家庭で授業の復習をしている生徒が全国比-23.3ポイント・大阪市比-13.5ポイントであり、家庭学習の習慣化がなされていない。

読書が好きな生徒は、全国と比では-2.2ポイントであるが、大阪市比では+5.7ポイントであった。これは朝読書の成果である。

今後の取組

今年度の全国学力・学習状況調査では、国語・数学・理科とも大阪市が全国平均に近づいた。しかし、本校は従来通りの結果であった。今回の結果を学力向上委員会でさらに分析し、より本校生徒の実態に即した具体的方策を打ち出したい。まずは授業開始時の目標の明示、授業終了時の振り返りを徹底させるべく校内研修を充実させたい。

また本年度も家庭学習が定着していないことが明らかになった。基礎学力の定着には家庭での学習が必要不可欠である。保護者にも現状を報告する中、学校・保護者が一体となって、学力向上に取り組みたい。

【全体の概要】

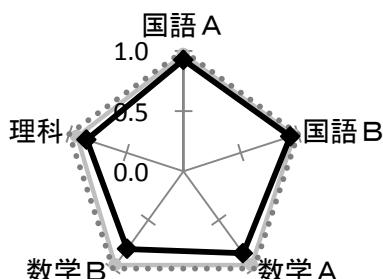
平均正答率(%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学校	70.1	61.4	54.3	33.2	44.9
大阪市	73.5	63.6	62.0	40.1	49.3
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

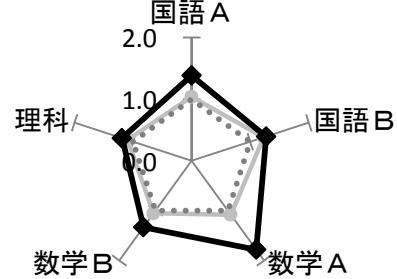
平均無解答率(%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学校	3.6	2.8	6.6	20.4	8.3
大阪市	2.7	2.7	4.0	16.1	7.6
全国	2.6	2.2	3.7	15.3	7.0

平均正答率(対全国比)



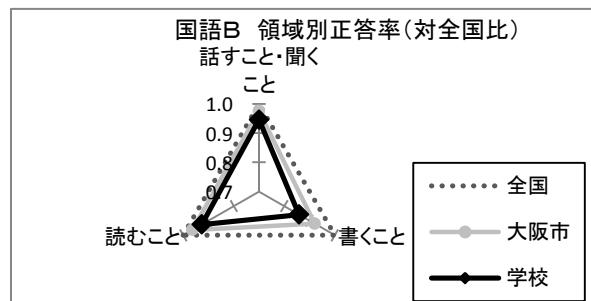
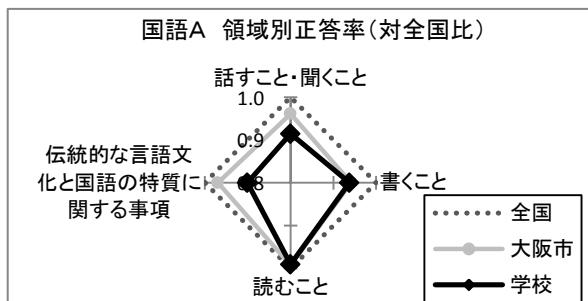
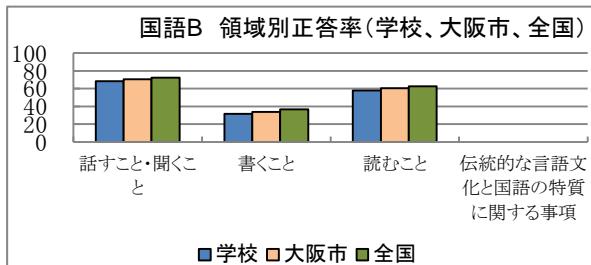
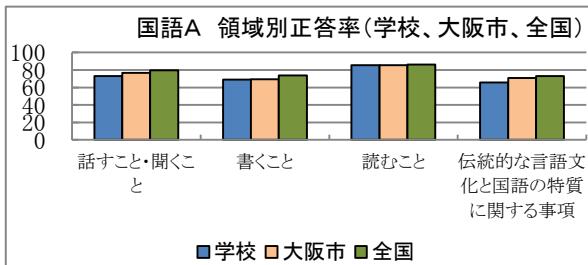
平均無解答率(対全国比)



【国語】

A 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	72.9	76.6
	書くこと	5	69.0	69.3
	読むこと	5	85.3	85.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	65.7	70.7

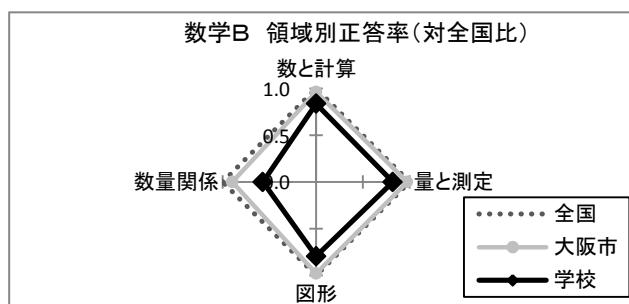
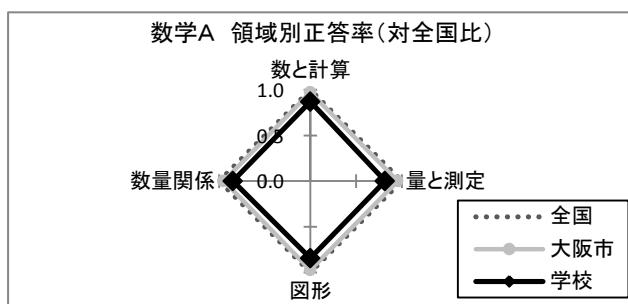
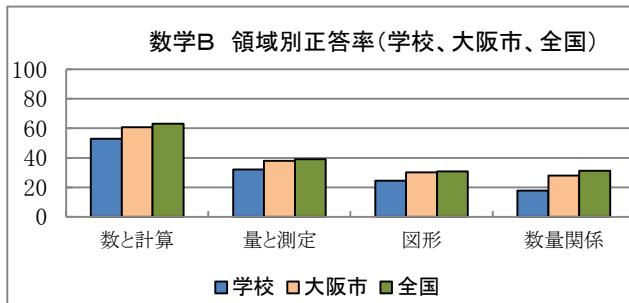
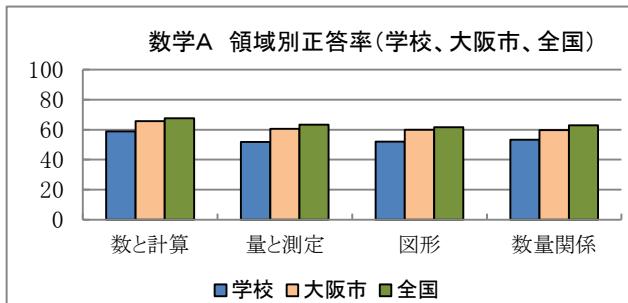
B 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	68.3	70.4
	書くこと	3	31.5	33.8
	読むこと	6	58.0	60.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—



【 数 学 】

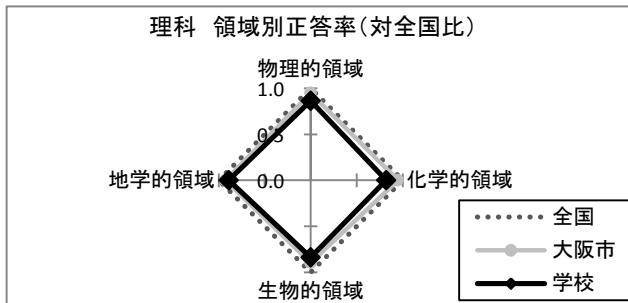
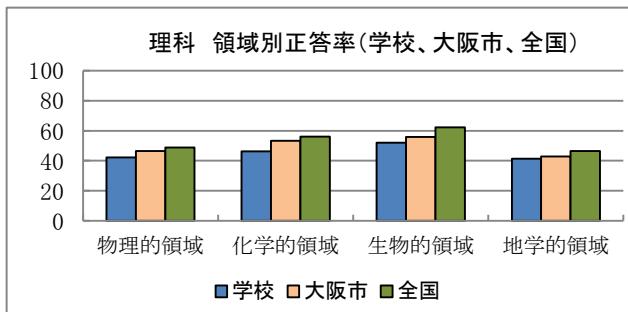
A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	12	58.8	65.7
	図形	12	51.8	60.5
	関数	8	52.0	60.0
	資料の活用	4	53.4	59.7

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	4	52.9	60.8
	図形	4	32.0	38.0
	関数	5	24.4	30.1
	資料の活用	2	17.8	28.0



【 理 科 】

		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	物理的領域	7	42.2	46.4
	化学的領域	7	46.2	53.3
	生物的領域	6	52.1	55.8
	地学的領域	6	41.3	42.9



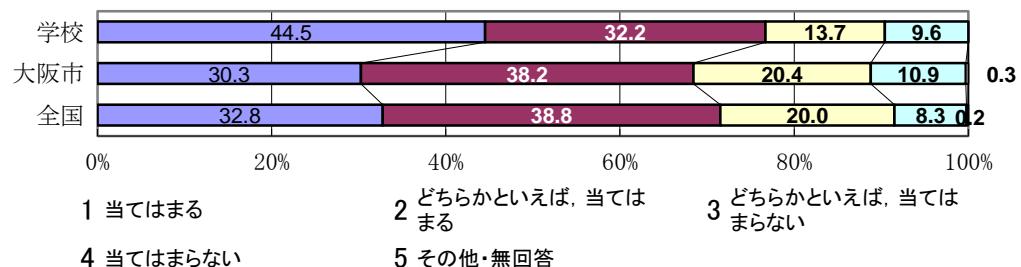
生徒質問紙より

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9

質問番号
質問事項

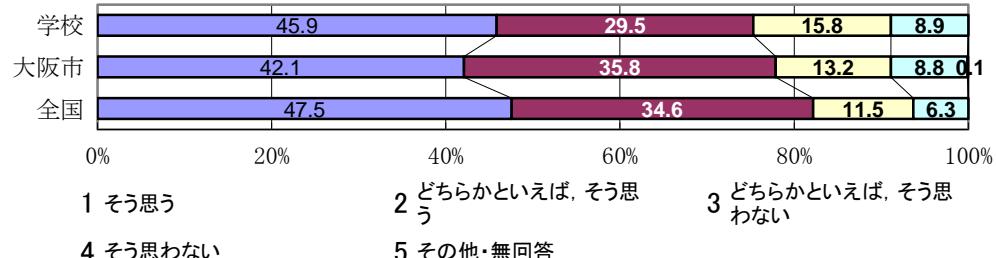
60

数学の授業の内容はよく分かりますか



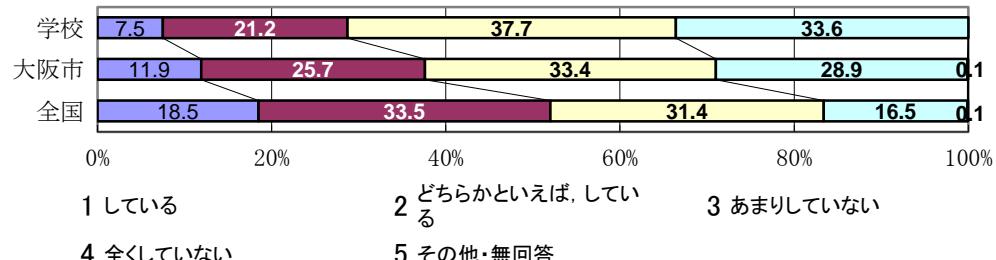
24

学校に行くのは楽しいと思いますか



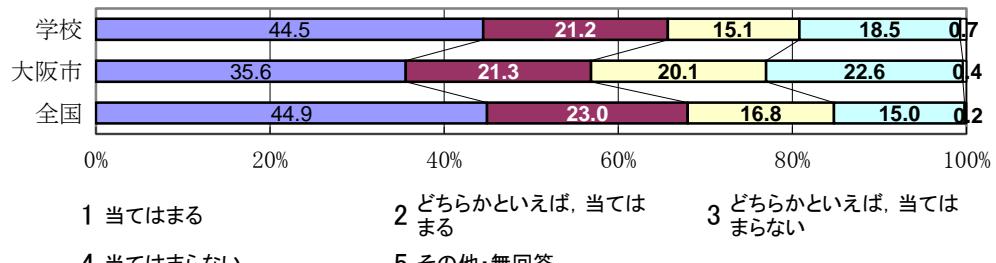
23

家で、学校の授業の復習をしていますか



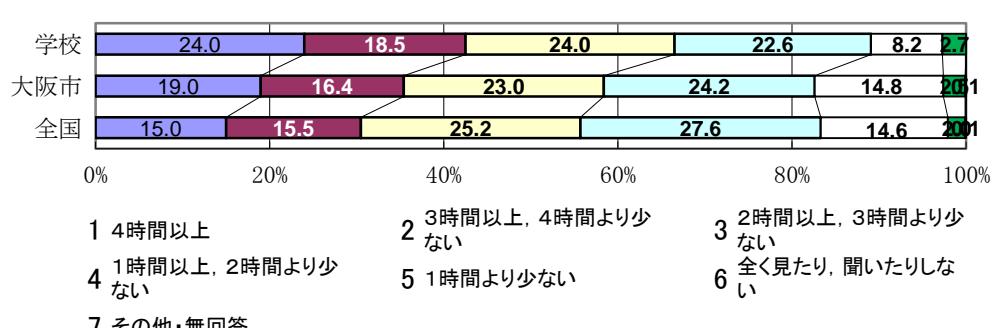
51

読書は好きですか



10

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)



学校質問紙より

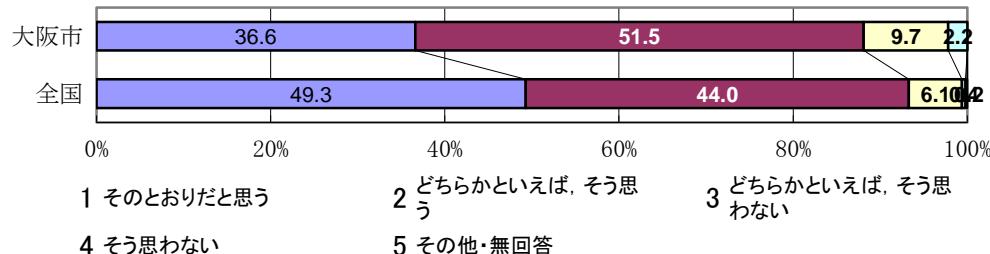
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

17

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

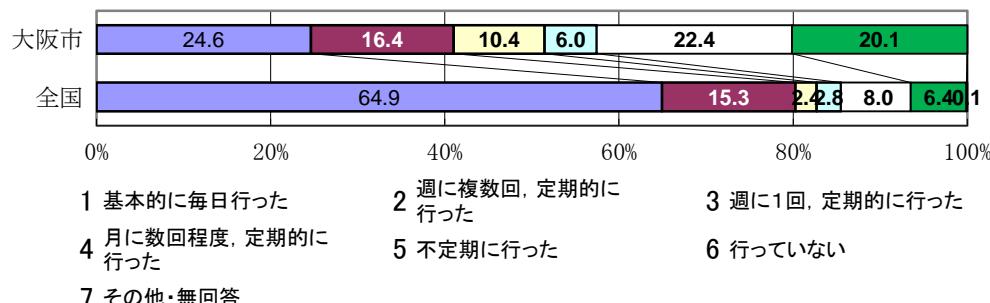
学校 「そのとおりだと思う」を選択



24

調査対象学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか

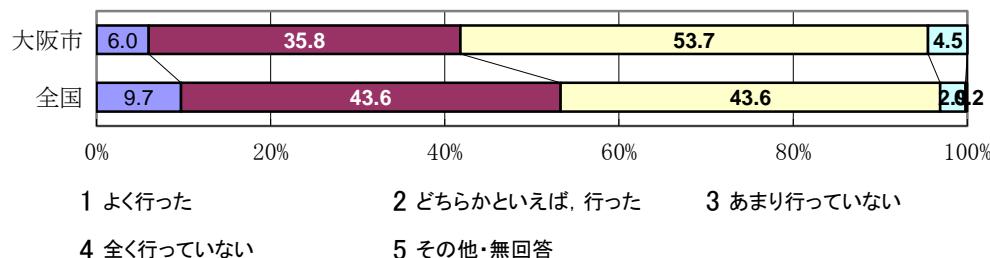
学校 「週に複数回、定期的に行った」を選択



46

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習（協働学習）や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか

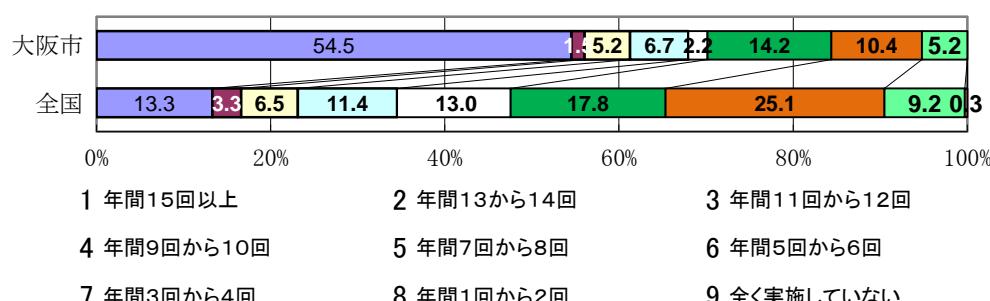
学校 「あまり行っていない」を選択



101

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校 「年間3回から4回」を選択



38

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか

学校 「あまり行っていない」を選択

